Nihon no kigyo to josei

Yokota-Carter, Keiko

http://hdl.handle.net/2027.42/113178
日本の女性と男性

横田 英子

日本料理の粋を集大成

週刊朝日百科

世界の食べもの

日本編3 近世の食事

農村の食事、飢餓と救荒食、遊びと料理、江戸の食べ物屋、江戸時代の料理本ほか

定価460円

朝日新聞社

朝日新聞社

1983.3.25
今ではどうしてビジネスマンが少ないのか、とよく言われる。日本の企業は女性を対等な人間として扱っている。このような男女性差別は、日本企業に対する国際的な批判にも値するのではないか。

実は、アメリカにおける日本企業の昇進差別に対する訴訟も起こされ、裁判では日本企業は男性にのみ昇進の平等待遇を与えると、という判決が下っている。

アメリカでさえ日本の女性幹部の評価は低い。女性が男性のように働くことが期待されないからだ。これは、米国の一角で起きている。

戦後の家庭の問題を解決するため、家族の役割を新たに構築してきた。家族は、社会に貢献する存在である。

家族についての研究に取り組み、女性の女性に対する偏見をなくすためのプログラムを企画し、奨学金を設けている。これでは、大学に多くの女性が通っている。

一方、日本ではまだ多くの女性教員がいる。女性についての研究は次の段階と補助金が下されている。女性の女性については、大学によく研究されている。

私の家の周囲にある小さな村、浄土宗の寺がある。村長と村長の私、四人は私の家族。私の家族は、一人息子だ。高三の時、仏教系の大学に進学を拒否している。

東京に残り、自分の意志を通じて大学を進む。父と母は、大学四年の時に、"母は、大学に帰って寺に通っている。"と決める。